自然史学会連合シンポジウムのお知らせ

自然史系の学協会で組織される自然史学会連合が「自然と人間の共生—21世紀の自然史科学の研究と教育の展望を探る—」と題するシンポジウムを下記の要領で行います.

記

日時: 1995年10月7日（土）午前10時〜5時まで

場所: 早稲田大学国際会議場（新宿区西早稲田）400名先着順，入場無料

演題: 10:00　速水　格（東大名誉教授）「海底洞窟動物群の意義—生物科学と地球科学の接点—」

10:40　大場秀章（東大）演題未定

11:20　青木淳一（横国大）「動物界の知名度—ダニを例として」

12:00〜13:00　休憩

13:00　斎藤常正（東北大）「生物進化の引きがねとしての大量絶滅」

13:40　赤澤　威（東大）演題未定

14:20〜14:40　休憩

14:40　日高敏隆（滋賀県立大学長）演題未定

15:20　招待講演

16:20　閉会

問い合わせ: 山口寿之（自然史学会連合幹事）
〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33　千葉大学理学部地球科学教室
TEL (043) 290-2832
FAX (043) 290-2859/2874
E-mail: tyamaguc@science.s.chiba-u.ac.jp

会　　記・Proceedings

魚類学雑誌
42(2): 223-227, 1995

日本学術会議だより No. 36（1995年3月）

新規に学術研究総合調査費などを計上した平成7年度予算（案）が決定された．また，アジア地域の各国科学者の代表を東京に招き，本年2月6日（月）から9日（木）までの4日間，三田共用会議所において第2回アジア学術会議〜科学者フォーラム〜を開催した．会議には，中国，インド，インドネシア，日本，大韓民国，マレーシア，フィリピン，シンガポール，タイ，ベトナムの10カ国の学術推進機関（アカデミー等）から推薦された人文・社会科学及び自然科学系の科学者20名が出席し（日本からは伊藤正男会長及び利谷信義副会長が出席），「アジアにおける学術交流のための方策」をメインテーマとして活発な討論を行った．

日本学術会議だより No. 37（1995年5月）

第121回総会が平成7年4月19日から3日間にわたって開催された．総会初日は，1)「阪神・淡路大震災調査特別委員会の設置」; 2)「国際農業工学会 (Commission Internationale de Genie Rural: CIGR) への加入」の2件が提案され，いずれも賛成多数で可決された．2日目は，伊藤正男会長から「日本学術会議の課題〜高度研究耐性を目指して〜」と題した基調報告が行われ，会長が提起したさまざまな課題について，会員間の自由討論が行われた．